

わが市わが町 秦野市

秦野市は県西部に位置し、都心から約1時間、丹沢表尾根の山々に囲まれた緑豊かなまちです。

県内唯一の盆地を形成していることから、地下は天然の水がめとなり、山からの水を蓄え、湧水が豊富なことから「名水の里」として知られ、平成28年に環境省が実施した名水百選選抜総選挙では、「おいしさがすばらしい名水」部門で全国1位に選ばれています。



全国1位の「おいしい 秦野の水」

この名水を支えているのが、市域の53%を占めている森林です。本市では、その森林を市民共有の財産として次世代に受け継ぐため、「はだの世紀の森林づくり構想」を策定し、森林を50年かけて再生し、さらに50年かけて適正に管理する取り組みを進めています。

具体的には、標高300mまでの広葉樹を中心とした森林地域を里山エリア、標高300m以上の針葉樹を中心とした森林地域を水源エリアとして区分し、施業管理を行っています。

＜里山エリアにおける保全活動＞

秦野盆地は、かつて日本三大葉たばこと名を馳せた「秦野葉」の生産

地として知られ、昭和59年にその幕を下ろすまで約300年の歴史があります。当時は、葉たばこ栽培に欠かせない資源として、クヌギやコナラを肥料や燃料として活用していたことから、集落の周りには雑木林が広がり、美しく自然豊かな里山が形成されてきました。

本市では、里山を秦野の原風景として後世へ残していくため、20年前から市民と協働した保全活動に取り組んでいます。現在では、40団体を超えるボランティアにより、45ヘクタールの森林の整備、管理が行われており、その活動が評価され、本市の里山は、環境省の重要里地里山にも選定されています。

＜水源エリアにおける林業振興＞

一方、水源エリアにおいては戦後の造林政策により植えられたスギ、ヒノキが収穫期を迎えており、間伐、枝打等の森林整備とともに、木材利用の促進が急務となっています。

そこで、秦野産木材の利用促進及びブランド化を図るための取り組みとして、素材生産者、製材関係者で秦野産材活用推進協議会を設立し、平成25年度から秦野産材産地認証制度を開始するとともに、認証材を使った住宅に対する補助金を設けるなど、市民の皆様へ地元木材を使っただけのための取り組みを進めているところです。

さらに、特色のある事業として、小

学校の学習机に秦野産ヒノキを使う取り組みを進めています。一枚一枚手作りで作られた天板は、無垢で手触りが良く、ヒノキの香りを感じることができ、児童が地元木材の利用意義を学ぶことができます。

今後も森林整備と木材利用の両輪で林業振興に努めていきます。



秦野産木材産地認定マーク



秦野産ヒノキ机

＜おわりに＞

この度、大地康雄さん主演の秦野を舞台とした映画「じんじん〜其の二〜」の上映が開始されました。今後、スローシネマとして、県内をはじめ全国で上映される予定です。本作品は、林業をテーマとした心温まるヒューマンドラマとなっています。お近くで上映される際には、是非ご覧ください。

(秦野市環境産業部森林づくり課)

